



# わかみどり

URL <http://www.minami.city.kitamoto.saitama.jp/>

**北本市立南小学校**

Tel 048-591-4709

Fax 048-591-5802

みんな なかよく みどりの学校

かしこく 元気な 南っ子

## 「知の半減期」と「学歴の賞味期限」

校長 安野 正人

厳冬の後、暖かい日が続くと開花が早いとの言い伝え通り、今年は早々に桜が満開になり、散っていきました。しかし、「みどりの学校」の南小らしく、柔らかい若葉に包まれての新年度の始まりです。短い間に、子どもたちの卒業、進級、入学があり、教職員の異動があり、顔ぶれも大きく変わりました。新しいメンバーで協力し、最高の南小学校を目指していきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

いきなり昔話で恐縮ですが、私が学生時代の1980年頃は、社会学者であるエズラ・ヴォーゲルによる『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が大流行していました。ちょうどバブル期にさしかかっていた頃です。欧米に追いつけ、追い越せでやってきた日本が、もう欧米に学ぶものはない、日本が世界の先頭なんだ、という空気であふれていた時代です。今から思うと恥ずかしくなりますが、逆に、お手本になるものがないゆえ、自分の頭で考えることの必要性が強調された時代です。知識偏重から思考力重視への「ゆとり教育」の萌芽は、ここにありました。誤解ばかりが先立ち、立ち消えになってしまいましたが…。

当時、よく耳にしたのが「知の半減期」という言葉です。半減期とは、ご存じの通り「放射性元素の半減期」にちなむものです。明治の頃は、大学を出ればそこで得た知識で一生暮らすことができました。それが20年になり、10年になり、今は何年持つのだろうかという話でした。さらに進み、平成も終わりを告げる現在は、いったいどれくらいなのでしょう。日進月歩どころか、秒進分歩などと言われる現代。大学程度では基礎的な知識なのかもしれません。

同じことが、「学歴」でも言えるようです。最近読んだ本の中に、転職コンサルタントの方の話が出ていました。「終身雇用」が当たり前でなくなってきた現代、転職に際し、何が求められているかを、当人が理解しているかどうか、という話でした。

結論を先に書いてしまうと、学歴の賞味期限はせいぜい10年だそうです。初めの就職時には学歴もものをいうけれども、10年経っても学歴に拘泥している人は、うまくいかない。その10年間に、どんな実績を上げ、どんなキャリアを積んできたか。つまり過去の話でなく、職歴でどれだけ成長してきたかが問われている、とのことでした。

どちらの話にも共通しているのは、学び続ける姿勢と、質の大切さです。AI（人工知能）が一般化していくこれからは、さらにそうなるでしょう。

今年度から、小学校では新学習指導要領に移行していきます。道徳は本格的に教科として扱うことになり、3、4年は外国語活動が、5、6年では外国語科が一部先行実施されます。他の教科でも、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の実現に向け、取り組んでいくこととなります。これらは、学びの質を変えていこうとするものです。自ら問いを立て、自ら考え、自ら解決していく力。つまり、「生き抜く力」や自己教育力の育成と言えます。社会全体が「学力」に対する認識を改めていかなければなりません。卑近な例で言い換えれば、「もぐもぐタイム」や「対局中の出前」に注目するのではなく、競技や対局そのものが話題になるような、そんな本質を目指す教育を進めていきたいと思ひます。

